

平成26年度

教育委員会事務局

運営方針 (抜粋)



# 平成26年度重点取組の概要

※以降に記載する前年度の取組成果については、平成26年4月時点で把握している状況を記載しています。

## 開かれた学校づくりと市民との共汗で進める教育改革

### 1 「学校運営協議会」の設置拡大・取組の充実【18,257千円】 <学校指導課>

地域や保護者の方々の具体的な参画により、学校の応援団として、子どもたちのために共に汗をかいていただく、京都方式の学校運営協議会の設置拡大・取組の充実を図ります。

- |          |  |
|----------|--|
| 取組目標     | ・小学校への学校運営協議会の設置校拡大（27年度までに全校設置）   |
| 前年度の取組成果 | ・210校・園（幼11,小155,中37,総7）に学校運営協議会を設置（全国最多）<br>・「全国コミュニティ・スクール研究大会 in 京都」を開催 |

### 2 「子どもを共に育む京都市民憲章の実践の推進に関する条例」の普及・促進【6,000千円】 <生涯学習部, 保健福祉局共管>

子どもを健やかに育むための市民共通の行動規範である「子どもを共に育む京都市民憲章（愛称：京都はぐくみ憲章）」の理念が、市民生活の隅々にまで浸透し、社会のあらゆる場において実践行動の輪が広がることを目指した標記条例、とりわけ子どもを育む社会環境づくりを優先するための取組やインターネットの不適切利用対策を進めるために必要な措置を講じた昨年度の条例改正を踏まえ、新ロゴマークの活用等により、その積極的な普及・促進を図ります。

- |          |  |
|----------|--|
| 取組目標     | ・子どもを共に育む京都市民憲章推進協議会答申を踏まえた取組の実施<br>・26年度行動指針の策定・実践、実践推進者表彰の実施<br>・憲章の愛称及び新ロゴマークを活用した憲章の普及促進 |
| 前年度の取組成果 | ・子どもを取り巻く環境等を踏まえた憲章条例の改正<br>・25年度行動指針の策定・実践、実践推進者表彰式の開催<br>・憲章の愛称及び新ロゴマークの策定                 |

### 3 地域住民・保護者との共汗で進める学校統合及び新しい学校づくり【1,918,500千円】 <教育環境整備室, 学校統合推進室>

子どもたちのより良い教育環境の実現を目指し、保護者・地域と行政との「共汗」により、行政としての説明責任を徹底する中で、保護者・地域による論議・検討を尊重する、「地元主導」による学校統合を推進します。

- |          |   |
|----------|---|
| 取組目標     | ・東山泉小中学校の開校（26年4月）<br>・小規模の保護者・地域への的確な情報提供と論議・検討の促進 |
| 前年度の取組成果 | ・新洞小学校の校名変更を伴わない錦林小への統合<br>・東山泉小中学校開校に向けた取組の推進      |

## 確かな学力向上対策の推進

### 4 京まなびプロジェクトの推進【242,203千円】 <学校指導課>

子どもたちが自ら学び、自ら考える力の定着を目指し、「全国学力・学習状況調査」、「ジョイントプログラム」（小学校5～6年）や「学習確認プログラム」（中学校1～3年）の結果等の分析・考察を基に、全小・中学校における学力向上の取組を展開します。

- |      |   |
|------|---|
| 取組目標 | ・小中一貫で学力向上を図る教材等を全校で活用<br>・全国学力・学習状況調査等の学力分析システムの効果的な運用と指導方法改善の推進 |
|------|---|

- ・学習支援プログラム（「ジョイントプログラム」「学習確認プログラム」）の効果的な活用
- ・土曜学習の全小・中学校での実施と取組の充実

#### 前年度の取組成果

- ・全小・中学校で京まなび推進事業（習熟度・課題等に応じた学習教材の導入等）の実施
- ・全国学力・学習状況調査等の分析システムの運用
- ・土曜学習の全小・中学校での実施

### 5 小中一貫教育の推進【17,485千円】

＜学校指導課＞

義務教育9年間の子どもたちの豊かな「学び」と「育ち」の充実のため、小・中学校が目指す子ども像を共有するとともに、多くの保護者や地域の方々に参画いただきながら、地域ぐるみの小中一貫教育を全市で展開します。

#### 取組目標

- ・中学校区における小中学校合同の学校運営協議会の設置拡大
- ・小中一貫教育の先進事例の発信・普及
- ・全ての中学校ブロックで小中一貫教育推進事業を実施

#### 前年度の取組成果

- ・中学校区における小中学校合同の学校運営協議会を11ブロックで設置
- ・全小中学校を対象に小中一貫教育校による実践発表を含む研修会を実施

### 6 ICT環境の充実【1,363,685千円】

＜学校事務支援室＞

学力向上をはじめとする教育活動の一層の推進及び教員の負担軽減による子どもと向き合う時間の確保を目指し、全校校内LAN整備、教員一人1台のPC配備、全小・中学校への電子黒板の導入、タブレット端末パソコン導入にあたっての調査研究などを通して、全国トップレベルのICT環境の充実を図ります。

また、小・中・高校等に「児童生徒情報管理」「通知票・指導要録作成」等の校務事務を電算処理することができる「校務支援システム」を本格導入します。

#### 取組目標

- ・校務支援システムの本格導入
- ・ICTの効果的な活用の推進
- ・校務事務電算化システムの全校での本格運用
- ・県費負担教職員の給与費等の移管に向けた教職員人事給与システム改修準備

#### 前年度の取組成果

- ・授業におけるICT活用時間数の増加（21年度比 1.1倍）
- ・校務支援システムの先行導入実施（小中30校）

### 7 教員の資質・指導力向上、教職員評価【230,898千円】

＜教職員人事課・総合教育センター＞

教職員評価システムの活用や学校組織の核となるミドルリーダー教員の養成等今日的課題を的確に踏まえた研修、また、若手教員の資質向上や授業改善に向けた校内研修を推進するとともに、教材や研修に関する情報を一元化した「総合教材ポータルサイト」により、学校での授業づくりと研修環境の充実を図ります。また、教職員の活躍や貢献を積極的に認め、給与反映を伴う評価制度（査定評価）を実施します。

#### 取組目標

- ・給与を反映する教職員評価「査定評価」制度の円滑な実施と教職員の意欲喚起
- ・学校経営力の強化に向けた研修の充実
- ・研修や授業映像の配信等「総合教材ポータルサイト」の機能充実
- ・若手・中堅教員育成や授業改善に向けた校内研修の推進
- ・教員の専門性や指導力の更なる向上を目指した研修の実施と研究活動の支援

#### 前年度の取組成果

- ・査定評価制度の実施
- ・新任・2年目管理職研修、「学校経営力向上講座」の実施と次期管理職候補者の養成に向けた研修機会の拡充
- ・「総合教材ポータルサイト」の運用と内容の充実に向けたコンテンツの作成

## 創造的で個性豊かな子どもの育成

### 8 グローバル人材の育成に向けた国際文化観光都市・京都ならではの英語教育、伝統文化教育等の充実【375,076千円】

＜学校指導課，生涯学習部，生涯学習総合センター＞

世界に誇る京都の財産を引き継ぎ、国際舞台で京都の魅力を自らの体験等を通して発信するとともに、英語を使って物怖じすることなく海外からの観光客をはじめ外国人に“おもてなし”を実践することができる、国際文化観光都市・京都ならではのグローバルな人材の育成を目指し、「子どもたちが日本・京都を知る取組」「子どもたちが日本・京都を伝える取組」を充実します。

#### 取組目標

- ・全小・中学校で伝統文化体験活動の実施
- ・京都市英語教育拠点校を設置し、6年後の小学校英語の教科化等を見据えた取組の推進
- ・英語検定補助事業により、市立中学生、高校生の受験を奨励
- ・海外研修・留学への支援
- ・京都・観光文化検定チャレンジ補助事業により、中学生の受験を奨励
- ・博物館施設等での体験の充実
- ・平安京創生館の資料を学習教材として活用推進

### 9 環境教育・理科教育の推進【81,326千円】

＜学校指導課，青少年科学センター＞

家庭・地域や大学、企業、NPO等との連携により、「環境モデル都市」を担う子どもたちの環境に対する感性を培い、環境の保全や問題解決に向けて行動する態度を育成するため、教科での学習はもとより、教育活動全体を通して環境に関する学習を展開します。また、自然科学分野への興味関心を抱かせ理科好きな子どもを育むため、大学、企業、NPO等の協力による実験教室の開催などを通して、各校での授業や科学センターでの学習及び各種事業の充実を図るほか、開館50周年に向け、5年計画で新規展示品を整備するなど科学センターの展示スペースのリニューアルを進めます。

#### 取組目標

- ・環境教育スタンダードの全小・中学校での活用
- ・KES 学校版の全小・中・総合支援学校（小・中学部）の認証取得
- ・こどもエコライフチャレンジ推進事業の全小学校での実施
- ・「未来のサイエンティスト養成事業」の実施、講座内容の充実（講座参加人数700人）
- ・青少年科学センター展示スペースのリニューアル

#### 前年度の取組成果

- ・KES 学校版「環境にやさしい学校」全小・中・総合支援学校（小・中学部）認定
- ・こどもエコライフチャレンジ推進事業の全小学校での実施
- ・「未来のサイエンティスト養成事業」の実施（講座参加人数 677 人）

### 10 魅力ある学校図書館づくりの推進、「第3次京都市子ども読書活動推進計画」の実践【100,249千円】

＜学校指導課，生涯学習部，中央図書館＞

言語活動の充実に向けて，学校図書館の「読書センター」及び「学習・情報センター」としての機能を充実し，魅力ある学校図書館運営を目指します。

また，「心豊かに生きるための 本との出会いと読書習慣の定着」を目標として掲げた，「第3次京都市子ども読書活動推進計画」（計画期間：平成26年度～30年度）に基づき，学校・家庭・地域等の連携の下，子どもの読書活動のさらなる充実に向けた取組を進めます。

#### 取組目標

- ・学校図書館運営支援員の配置拡大（27年度に全校配置）
- ・学校図書館活用事例集の作成 ・中学校版読書ノート作成
- ・京都市図書館所蔵図書学校の年間団体貸出冊数 40,000 冊
- ・タブレット型端末PC等を活用し，学校図書館のメディアセンターとしての機能充実を図る調査研究の実施

#### 前年度の取組成果

- ・学校図書館運営支援員の配置（小・中・総合支援学校合わせて 197 校）
- ・1 年間に 100 冊以上の本を読む子ども 2 万人の達成（28,247 人）
- ・京都市図書館所蔵図書学校の年間団体貸出冊数 33,542 冊

### 11 社会的・職業的自立に向けた生き方探究教育の充実【87,159千円】

＜学校指導課・京都まなびの街生き方探究館＞

小・中学生が京都まなびの街生き方探究館内の施設を活用し，職業体験・消費者体験や生活設計体験を行う「スチューデントシティ・ファイナンスパーク事業」や，中学生が職場体験・勤労体験を行う「生き方探究・チャレンジ体験推進事業」，企業創業者等の情熱・努力・生き方を紹介する殿堂とモノづくり体験を行う工房での体験学習を通して，京都の先端産業・先端科学に関心を深め，将来や夢に向かう意欲を育成する「京都モノづくりの殿堂・工房学習」など，産学公連携の下，子どもたちが自らの生き方を考え生きる力を育む生き方探究教育の充実を図ります。

また，生徒が自らの将来を見据え，学び続ける意欲を育てることを目的とした「中高接続プロジェクト」を，中学校長会，高等学校長会及び京都市教育委員会が共同で進め，中等教育としての中学校と高校との接続を図ります。

#### 取組目標

- ・生き方探究教育に係る各種体験学習実施校の拡大（目標値：小・中・総合支援学校で延べ 390 校）
- ・「中高接続プロジェクト」による「中高連携のモデル」の構築と具体的提言

#### 前年度の取組成果

- ・スチューデントシティ・ファイナンスパーク事業（小・中・総合支援学校 218 校 16,106 名）
- ・生き方探究・チャレンジ体験推進事業（中・総合支援学校 77 校 10,354 名）
- ・京都モノづくりの殿堂・工房学習（小学校 118 校 7,251 名）
- ・「中高接続プロジェクト」による進路指導指針及び Q&A の策定

## 心身ともに健全でたくましい子どもの育成

### 12 市内 111 団体が参画する人づくり 21 世紀委員会と連携した子どもの健全育成【10,913 千円】〈生涯学習部〉

平成 10 年の発足以来、教育や保育、青少年健全育成団体はもとより、女性、医療、福祉、文化、スポーツ・経済等の幅広い 111 団体が参画する人づくり 21 世紀委員会と連携し、子ども一人一人が健やかに育つことのできる社会づくりを推進します。

- 取組目標**
- ・「人づくりフォーラム」の開催
  - ・「子どもを共に育む京都市民憲章」（愛称：京都はぐくみ憲章）の普及促進に向けた実践活動の推進
  - ・各行政区での「中学生と大人の語り合い」等特色ある取組の推進

- 前年度の取組成果**
- ・「人づくりフォーラム」総参加者数 500 名
  - ・中学生と大人との語り合い事業を各行政区（計 16 箇所）で実施

### 13 しなやかな道徳教育と子どもたちの規範意識を育むための取組の充実【6,479 千円】

〈学校指導課，生徒指導課，生涯学習部，総合教育センター〉

「道徳教育振興市民会議」の最終提言を踏まえ、学校・家庭・地域が一体となった市民ぐるみの開かれた道徳教育の推進に加え、「全ての教育活動を通じた道徳教育」を小中一貫した取組で推進します。また、子ども一人一人の社会的自立に向け、問題行動の防止はもとより、望ましい生活習慣の確立による学力の定着・向上を図るため、保護者・市民団体・学校及び行政機関の連携により、子どもたちの規範意識を育むための取組の充実を図ります。

- 取組目標**
- ・小中一貫した道徳教育の更なる推進
  - ・非行防止教室の実施（全小・中学校・高校）
  - ・中学校の生徒会活動の活性化

- 前年度の取組成果**
- ・非行防止教室の実施（全小・中学校・高校）
  - ・全市の中学校の各支部の代表生徒による「京都市中学校生徒会サミット」の開催
  - ・中学校ブロック単位で指定校を設定し、小中連携を踏まえた取組を推進（小学校 19 校・中学校 9 校を指定）

### 14 いじめ・不登校対策の充実【329,307 千円】〈生徒指導課，教育相談総合センター〉

不登校の未然防止に向け、各学校において、不登校傾向にある児童生徒の小・中学校における情報連携を密にしながら、児童生徒一人一人の自己存在感や自己有用感を徹底的に大切に集団づくりを一層進めるとともに、不登校児童生徒について、小集団での体験活動や学習活動等を通じて、学校復帰や社会への適応を支援するなど、様々な取組を進めます。また、平成 25 年 9 月に施行されたいじめ防止対策推進法を踏まえ、本市のいじめ防止基本方針となる新たな条例を平成 26 年度秋までに制定し、いじめ未然防止等のための取組の更なる充実を図ります。

- 取組目標**
- ・「ふれあいの杜」や洛風・洛友中学校など、不登校を経験した子どもの学びと育ちを促進する諸活動の展開
  - ・いじめ防止基本方針となる条例の制定及び取組の充実
  - ・小学校 129 校にスクールカウンセラーを配置（27 年度に全校配置）
  - ・教員が学級実態をより適切に把握するためのクラスマネジメントシートの実施

- 前年度の取組成果**・全中学校・高校・総合支援学校及び小学校 95 校にスクールカウンセラーを配置

## 15 食育・健康教育・子どもの体力向上推進【481,295千円】 <学校指導課，体育健康教育室>

望ましい生活習慣の確立，食育，保健指導，むし歯予防，薬物乱用の根絶に向けた取組，また，児童生徒の体力向上を旨とした取組を推進します。

- 取組目標**
- ・学校給食における「和食」の推進
  - ・食物アレルギー対策の推進
  - ・薬物乱用防止教室の全中学校・高校での実施，エイズ教育の充実
  - ・小学校「大文字駅伝」大会の充実，小・中学校，高校運動部活動の推進

### 前年度の取組成果

- ・薬物乱用防止教室の実施（全中学校・高校）
- ・小学校「大文字駅伝」大会における警備員の増員等により，安全かつ効率的な大会運営を実施

## 16 学校における安全教育の推進・安全管理の徹底【14,528千円】 <体育健康教育室>

各学校において，児童生徒に対して各教科等を通じて安全に係る知識や技能の習得を図る安全学習，及び特別活動を通じて実践的な態度や能力の育成を図る安全指導を行うとともに，学校生活の安全管理（対人管理），学校環境の安全管理（対物管理）及び通学路の緊急総点検による要対策箇所について，児童生徒の安全確保を最優先に，警察，土木事務所，各学校と連携して，学校安全計画に基づき取組の徹底を図ります。

また，平成24年7月，本市立小学校で起きた水泳指導中の死亡事故を踏まえて作成した，水泳指導の「手引」と「指針」に基づき，各校の水泳に係る安全管理体制や指導手順等を点検し，引き続き安全な水泳指導に向けた取組の徹底を図ります。

- 取組目標**
- ・通学路の安全や水泳指導をはじめとする学校教育活動中の事故防止等のための「学校安全の手引(改訂版)」の活用推進
  - ・安全教育副読本「安全ノート」の活用推進
  - ・通学路の安全確保の取組の充実

- 前年度取組成果**
- ・通学路の安全や水泳指導をはじめとする学校教育活動中の事故防止等のための「学校安全の手引」の改訂
  - ・水泳指導における具体的な監視の仕方を内容に含めた研修会の実施，各校で作成された水泳指導要項の点検

## 17 防災教育の推進【2,500千円】 <学校指導課，体育健康教育室>

平成23年3月11日に発生した東日本大震災や，平成25年9月の台風18号による本市の甚大な被害を教訓として，子どもたちに自然災害に関する知識を身に付けさせ，危険に際して自らの命を守るため「主体的に行動する態度」を育成するとともに，災害時に復旧・復興を支えるための「支援者」として社会に貢献する意識を高める取組を推進します。

- 取組目標**
- ・京都市防災教育スタンダードの活用の推進
  - ・学校防災研修会の実施
  - ・緊急地震速報受信システム等を活用した避難訓練など防災に関する指導方法の普及
  - ・安全教育や安全管理の在り方について学校教育活動全体を通じた研究を行う「セーフスクール推進事業の指定(小1校)」，学校・家庭・地域が連携した研究実践の普及



### 前年度の取組成果

- ・京都市防災教育スタンダードの活用の推進
- ・「京都市学校防災マニュアル作成指針」の改訂を踏まえた各学校・幼稚園の防災マニュアルの更なる改訂
- ・学校防災研修会の実施
- ・安全教育や安全管理の在り方について学校教育活動全体を通じた研究を行う「セーフスクール推進事業の指定(小1校)、学校・家庭・地域が連携した研究実践
- ・新たに導入した緊急地震速報受信システムを活用した避難訓練や保護者・地域とも連携した子どもの引き渡し訓練、避難所運営体験等を実施(新規8校、計18校園)

## 障害のある子どもへの教育の推進

### 18 切れ目のない支援と、総合支援学校における職業教育の充実、支援を要する子どもへの学習支援の充実【485,663千円】

＜総合育成支援課＞

幼稚園・保育所等の就学前の段階で行ってきた配慮・支援の情報を小学校に伝える「就学支援シート」の全就学前施設での実施をはじめとする、教育・福祉が連携した切れ目のない支援を行う取組を推進します。総合支援学校においては、企業就職を希望する生徒や保護者の願いにより多く応えるため、地域や保護者、企業等との連携の下、設置時から約2倍に定員を拡大した職業学科をはじめとする高等部生徒の企業実習の更なる拡充を図ります。また、LD(学習障害)等支援の必要な児童生徒の指導・支援充実のため、引き続き、総合育成支援員の必要な学校全てへの配置やLD等通級指導教室の増設を図ります。

### 取組目標

- ・「就学支援シート」の全就学前施設での実施
- ・総合支援学校生徒の企業実習回数拡大
- ・LD等通級指導教室での指導を受けることのできる児童生徒の拡大

### 前年度の取組成果

- ・北・西総合支援学校の校舎増築完了(25年度末)
- ・白河総合支援学校東山分校(25年4月開校)を中心とした、地域・企業等と共に生徒を育む新たな職業教育の推進
- ・総合支援学校生徒の企業実習回数(24年度:830回、25年度:774回)
- ・通級指導を受けている児童生徒数(24年度:414名、25年度:429名)
- ・「就学支援シート」実施就学前施設数(24年度:72施設、25年度:313施設)

## 魅力あふれる高校づくりの推進

### 19 進路希望の実現を目指す特色ある高校づくり、市立工業高校再編に伴う「新しい工業高校」の創設【133,030千円】

＜学校指導課＞

中学生が自らのキャリア形成に向け、これまで以上に主体的に高校を選択できる「京都市・乙訓地域公立高校の新たな教育制度」の導入に伴い、市立高校においては、進路希望の実現に向け、生徒一人一人の個性・能力の伸長につながる魅力あふれる教育活動を推進します。

また、「京都市立工業高校将来構想委員会」の提言を踏まえ、洛陽・伏見工業高校を再編し、将来の日本の「まちづくり」・「ものづくり」をリードする人材育成を日指す「新しい工業高校」を創設します。(立命館中学・高校跡地(伏見区)に平成28年度開校予定)

#### 取組目標

- ・各市立高校における魅力あふれる教育の推進
- ・洛陽・伏見工業高校の再編に向けた新しい工業高校づくりの推進

#### 前年度の取組成果

- ・京都市・乙訓地域公立高校の新しい教育制度の導入
- ・京都市立工業高校の再編に関する基本方針」の策定 ・「新しい工業高校」の整備予定地の決定
- ・普通科系5校：4年制大学現役進学率58.4%，工業高校2校：学校斡旋就職内定率100%（12年連続）

### 子育て支援の充実

#### 20 「子どもを共に育む『親支援』プログラム」・「青少年のための『親学習』プログラム」の推進【1,134千円】

＜生涯学習部，こどもみらい館＞

妊娠中の方から思春期までの子どもを持つ保護者を対象に，親としての心構えや必要な知識・技術等を子どもの発育・発達段階に応じて学べる「親支援プログラム～ほっこり子育てひろば～」を保健センター，児童館，保育所（園），幼稚園，小・中学校等で実施し，子育てにおける不安感や孤立感の軽減を図ります。また，これから親になる世代（青少年）が乳幼児等とのふれあい体験ができる機会の拡大を図ります。

#### 取組目標

- ・「ほっこり子育てひろば」の実施（1,500回）
- ・青少年のための「親学習」プログラムの活用推進

#### 前年度の取組成果

- ・「ほっこり子育てひろば」の実施（1,043回，平成26年2月末現在）
- ・青少年のための「親学習」プログラムの活用推進

#### 21 子育て環境の一層の充実に向けた私立・市立幼稚園の預かり保育の充実【34,000千円】

＜総務課，学校指導課＞

子ども・子育て支援に関する新制度の本格施行に向け，多様化する保護者の就労形態や様々なニーズに応え，質の高い幼児教育が提供できる「教育・子育て環境日本一」のまちづくりを実現するため，保育時間終了後や長期休業期間中などの預かり保育の充実を図ります。

#### 取組目標

- ・私立幼稚園の「預かり保育」充実を支援する補助制度の創設・運用
- ・市立幼稚園のパイロット園（3園）における，預かり保育のカリキュラム・実施体制等の調査研究の実施

### 子どもたちがいきいきと学べる安心安全で特色ある教育環境整備

#### 22 学校施設の長寿命化・防災機能強化の推進【2,323,770千円】

＜教育環境整備室＞

災害発生時に緊急避難場所として活用されるなど，地域にとっても重要な役割を果たす学校体育館について，「学校教育活動の場としてふさわしい防災機能強化型体育館」に向けた整備を行います。また，消火用水やトイレ等の生活用水として活用されるなど，災害対策としても重要な役割を果たす学校プールについて，「学校教育活動の場としてふさわしい防災機能強化型プール」に向けた整備を行います。さらに，老朽化した校舎の長寿命化を図るための大規模改修を実施します。

#### 取組目標

- ・体育館リニューアル事業：工事着手（3校），設計の実施（4校）
- ・体育館改築事業：工事着手（1校），設計の実施（2校）
- ・プールリニューアル事業：工事着手（3校），設計の実施（3校）
- ・校舎長寿命化事業：工事着手（3校），設計の実施（3校），基本計画策定（3校）

#### 前年度の取組成果

- ・体育館リニューアル事業：設計の実施（3校）
- ・体育館改築事業：工事着手（1校）、設計の実施（1校）
- ・プールリニューアル事業：設計の実施（3校）
- ・校舎長寿命化事業：工事着手（3校）、設計の実施（3校）、基本計画策定（3校）

### 23 図書館のリニューアルや学校トイレの洋式化等、学校施設の整備推進【415,885千円】

＜教育環境整備室・学校指導課＞

子どもたちが木のぬくもりの中でくつろいで学校図書館で読書や学習をできるよう、京都市地域産材「みやこ杣木」を使用した机・椅子等の整備を進めます。

また、学校における重要な生活空間であるトイレについては、明るく居心地の良い「快適トイレ」への全面改修や、大便器の洋式化に特化した改修工事を行うなど、教育環境の1層の充実に向けた取組を推進します。

#### 取組目標

- ・快適トイレの整備（24校）
- ・洋式トイレの整備（18校）
- ・市内産木材を活用した学校図書館の環境整備（年約25校・8ヶ年計画）

#### 前年度の取組成果

- ・快適トイレの整備（22校）
- ・洋式トイレの整備（15校）
- ・市内産木材を活用した学校図書館の環境整備（44校）

## 生涯学習の推進

### 24 市民だれもが参加できる「学びのネットワーク」の構築【1,053千円】＜生涯学習部、生涯学習総合センター＞

生涯学習の拠点施設である生涯学習総合センター等において生涯学習講座を実施するとともに、本市生涯学習ポータルサイト（情報発信サイト）「京まなびネット」において、生涯学習団体等が主催する各種講座・イベント情報や施設情報、施策情報等の生涯学習情報を集約して、インターネットで一元的に案内・発信することにより、利用者の利便性を高めるとともに、コンテンツの充実を図り、生涯学習の主役である市民一人一人の学習活動を支援します。

#### 取組目標

- ・生涯学習ポータルサイトの充実
- ・博物館や大学等と連携による多彩な学習機会の提供、充実

#### 前年度の取組成果

- ・生涯学習ポータルサイトの充実（アクセス件数：141,665件）
- ・博物館や大学等と連携による多彩な学習機会（講座・展示・イベント）を実施

### 25 図書館サービスの充実【1,492,466千円】

＜各図書館＞

平成26年4月から、従来休館日であった地域館の第2・4水曜日を閉館日とするとともに、平成26年6月から京都市図書館全館の開館時刻を30分早め、9時30分からとするなど、1層の利便性の向上を図ります。また、平成26年度からの5か年計画で、“乳幼児連れでも気軽に行ける”児童コーナーの整備や“あんしん・かいてき図書館トイレ”の整備などを行うことにより、より多くの皆様に利用していただきやすい図書館にしていきます。

#### 取組目標

- ・貸出冊数、利用者数の増
- ・図書館環境の整備

#### 前年度の取組成果

- ・貸出冊数741万冊、利用者数404万人

## 平成26年度 京都市教育予算

### 【予算規模】

項 目	26年度	25年度	増△減	前年比
教 育 費	455億9500万円	443億5600万円	+12億3900万円	+2.8%
内 訳	学校・事務局等運営費	168億3625万円	+10億1715万円	+6.4%
	建物等施設整備費	99億7475万円	+11億9805万円	+13.7%
	人 件 費	187億8400万円	△9億7620万円	△4.9%

### 【予算の特色】

平成26年度京都市予算は、極めて厳しい財政状況のもとではあるが、市政の基本計画である「はばたけ未来へ！京<sup>みやこ</sup>プラン」に掲げた京都の未来像を着実に実現するための経費に、財源が重点配分された。

教育委員会では、「一人一人の子どもを徹底的に大切にする」教育理念の下、全ての子どもに「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」を育む教育のさらなる充実に向け、独自予算による小・中学校における少人数学級の実施、土曜学習の全校実施、京<sup>みやこ</sup>まなびプロジェクト、グローバルコミュニケーション力育成プロジェクト等による学力向上、しなやかな道徳教育総合実践推進事業や伝統文化体験活動等による豊かな人間性の育成、スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーの増員等によるいじめ・不登校対策等を進めるとともに、学校評価システムの充実や学校運営協議会設置校の拡大、教育活動のあらゆる分野へのボランティアの参画などの開かれた学校づくりを、さらに、子どもたちによる観光客を「おもてなし」する国際文化観光都市・京都の魅力発信事業や京都をつなぐ無形文化遺産「京の食文化」普及・啓発事業など京都ならではの取組を、独自の方式で積極果敢に推進する。

さらに、耐震補強完了後の学校施設について、環境にやさしい学校施設への改修や防災機能強化に向けた改築・改修等を推進し、また、トイレ洋式化や言語活動充実に向けた学校図書館の環境整備など、全市的な学習環境の充実を進める。

また、「豊かな人生は学びとともにある」という観点から、古典の日法制化関連事業など京都ならではの「地域力」「文化力」「人間力」を結集し、まち全体を学びの場とすることで、あらゆる世代の方が自ら楽しんで学び、その学びをまちづくり、地域、子どもたちのために活かすことのできる取組を進めるとともに、次代を担う子どもたちを市民ぐるみで健やかに育むため、「子どもを共に育む京都市民憲章」の実践に向けた取組を推進する。

この予算を最大限に活用し、市民の皆様と共に汗する「共汗」<sup>きょうかん</sup>で、全国をリードする教育改革をより一層強力に推進する。